

事項	あさつきの1月出荷のための保温開始時期と保温方法		
ねらい	無加温ハウスにおいて、あさつきの1月出荷のための保温開始時期と保温方法について検討したところ、成果が得られたので参考に供する。		
指導内容	<p>1 根株をハウスに直接定植する場合</p> <p>(1) 植付け時期 あさつきの休眠が覚める8月下旬～9月上旬とする。</p> <p>(2) 植付け方法 ビニールを除去したハウスに18cm程度の深さで植え付ける。</p> <p>(3) 保温開始時期 地上部が枯葉したら地際から刈り取り、ハウスにビニールを被覆する。11月下旬以降、夜間保温資材を被覆し、保温を開始する。 なお、日中はポリトンネル被覆、夜間はポリトンネルと保温資材の二重被覆を行うと、収穫がさらに早まる。</p> <p>(4) 収穫方法 地上部が7～8cm程度伸びた時点で収穫する。</p> <p>2 根株をコンテナ等で露地栽培し、ハウス内に持ち込む場合</p> <p>(1) 植付け時期 あさつきの休眠が覚める8月下旬～9月上旬とする。</p> <p>(2) 植付け方法 コンテナ等に18cm程度の深さで植え付け、露地栽培する。</p> <p>(3) 保温開始時期 地上部が枯葉したら地際から刈り取り、コンテナごとハウス内に持ち込む。11月下旬以降、夜間保温資材を被覆し、保温を開始する。 なお、日中はポリトンネル被覆、夜間はポリトンネルと保温資材の二重被覆を行うと、収穫がさらに早まる。</p> <p>(4) 収穫方法 地上部が7～8cm程度伸びた時点で収穫する。</p>		
期待される効果	あさつきの安定生産に寄与する。		
利用上の注意事項	<p>1 厳寒期はサイドカーテン等、保温対策を行う。</p> <p>2 保温開始時期までに完全に枯葉しなくても、地上部はすべて刈り取る。</p> <p>3 コンテナは深さ30cm程度のものを用いる。</p>		
担当	青森県畑作園芸試験場 栽培部	対象地域	県南地域
発表文献等	平成10～11年度 青森県畑作園芸試験場成績概要集		

【根拠となった主要な試験結果】

表1 保温開始時期と収量(kg/a)

(平成10年 青森畑園試)

保温開始時期	植付時のハウスのビニール被覆	収穫日	総収量	L	M	S	S未満
11月28日	有	2月3日	51.6	0.0	15.8	35.8	0.0
	無	1月22日	47.1	0.0	20.5	22.1	4.5
12月19日	有	2月11日	70.9	17.3	41.4	6.0	6.2
	無	2月5日	51.2	4.0	43.9	3.3	0.0
1月8日	有	2月19日	68.4	50.0	15.2	3.2	0.0
	無	2月19日	54.1	45.7	8.4	0.0	0.0

注) L: 全長30cm以上 M: 全長25~30cm S: 全長20~25cm
保温方法: 夜間、保温マット (ミラクロス) をトンネル被覆

表2 保温資材と収量(kg/a)

(平成11年 青森畑園試)

植付時のハウスのビニール被覆	保温方法	収穫日	総収量	L	M	S	S未満
有	夜間保温マット	2月4日	80.4	1.5	8.3	65.4	5.2
	ポリトンネル+夜間保温マット	1月31日	78.6	0.0	10.1	63.6	4.9
	バスライトトンネル+夜間保温マット	2月4日	79.8	1.6	9.0	61.1	8.7
	ポリマルチ+夜間保温マット	1月31日	75.3	0.7	22.6	45.2	7.0
無	夜間保温マット	1月19日	77.3	0.4	12.1	58.6	6.2
	ポリトンネル+夜間保温マット	1月11日	80.6	0.0	8.4	63.2	9.1

注) 保温マットはミラクロスを使用

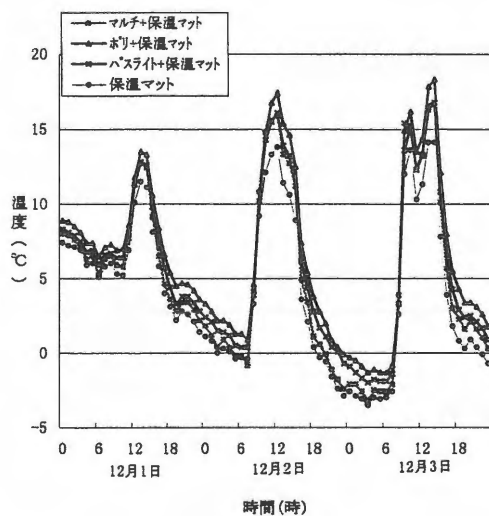


図1 保温方法別温度変化(平成11年 青森畑園試)

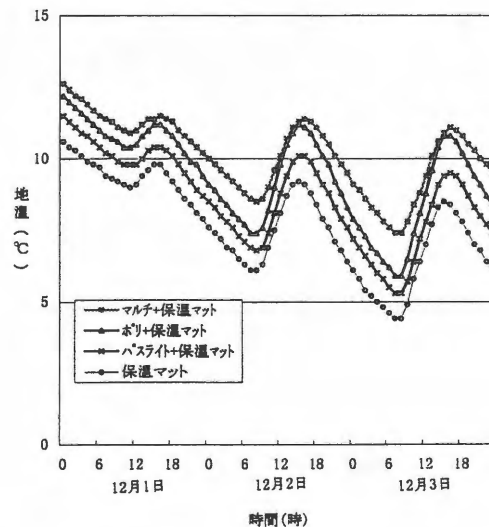


表2 保温方法別地温変化(平成11年 青森畑園試)

試験条件

- 1 植付時期 平成9年9月22日(平成10年)、平成10年9月4日(平成11年)
- 2 供試品種 キモト
- 3 種子量 3~4g
- 4 栽植様式 畦幅160cm、株間5cm、条間15cm、深さ18cm
- 5 施肥量 窒素1.0kg/a、りん酸1.2kg/a、加里1.0kg/a(全量基肥)

(参考) 資材価格

保温マット(ミラクロス): 200cm×50m 15,000円 (18,800円/a)
農ポリ: 0.03mm×210m×200m 3,800円 (1,200円/a)